

CONTENTS

● 一般社団法人音楽電子事業協会第12回通常総会報告/会長挨拶	1
● 新役員紹介/製品安全・環境委員会報告	2
● 令和5年度役員名簿・組織図	3
● 令和5年度事業計画/委員会活動	4~5
● ミュージッククリエイターハンドブック改定について	6~7
● AMEI会員名簿・令和5年度MIDI検定告知・SysExID会員募集	8

一般社団法人音楽電子事業協会 第12回通常総会報告

一般社団法人音楽電子事業協会第12回通常総会が令和5年5月19日午後1時から東京飯田橋のホテルメトロポリタンエンドモントにて4年ぶりに会場開催されました。

総会に先立ち、山口静一新会長より、「世界的なコロナ禍を契機に、新しい生活様式・働き方への移行が進んでいることを実感している。IT分野でも変化を加速していこうということで、音楽の楽しみ方・内容も様変わりしたのではないかと思います。ネットワークを繋ぐ価値はこれまで以上に大事になり、継続発展していくのではないかと。新しい音楽の楽しみ方に寄り添ったMIDI規格の進化、知的財産権の在り方の追求など、AMEIが果たすべき社会的な役割はさらに高まっていくのではないかと考えている。会員各社におかれては、MIDI2.0規格の普及に対して積極的な取り組みをしていただけており、本年3月にはAMEI、MMA、アップル、マイクロソフト等々が集まった国際会議も実施され、今後の普及にますます弾みがつきそうと期待している。今後もさまざまな変化に柔軟に対処していくことは必要になるが、新たに取り組むべきテーマについて考え、業界の発展と課題解決にあたりたい。」と会員各社への感謝を込めた挨拶がありました。

続いて、事務局から定足数（正会員25社に対し、出席10名、委任状9通）が発表され、総会の成立が報告されました。定款に基づき山口会長が議長となり、議事録署名2名が選任され、議案審議に移りました。

「令和4年度事業報告」の報告に続いて、第1号議案「令和4年度収支決算承認の件、及び監査の報告」が審議・承認。第2号議案「令和5年度事業計画（案）審議決定の件」では、事務局より各委員会の活動予定が説明され承認されました。続いて第3号議案「令和5年度収支予算（案）審議承認の件」が承認。第4号議案「令和5年度役員交代の件」は、幹事の鈴木周司様（株式会社鈴木楽器製作所）が成田賢哉様（株式会社鈴木楽器製作所）へと交代となる旨の説明があり承認されました。以上ですべての議案が審議・承認されました。

最後に議長より議事進行についての協力を謝す言葉があり、第12回通常総会は終了いたしました。



新会長ご挨拶

山口 静一 ヤマハ株式会社 常務執行役員 楽器事業本部長

令和5年5月19日に開催された第12回通常総会にてご承認をいただき、山浦敦前会長の後任として会長に就任いたしました。この紙面をお借りして、皆さまにご挨拶申し上げます。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症による社会の混乱、半導体を始めとする部品供給難、加えてロシアによるウクライナ侵攻の影響等々、大きな変革や緊急対応を求められる場面が多々あり、人々の意識も大きく変わったと認識しております。当協会においても、理事会や総会、各委員会、MIDI検定などもオンラインで実施するなど、新型コロナ発生前とは大きく異なる活動形態となりました。リアルに顔を合わせる事が難しくなった一方で、オンライン会議が可能となったことによるメリットも発生しました。委員会によっては出張ベースで会議を開催していた頃よりも頻繁に会議を開催することができるようになり、活性化している側面もあると伺っております。

さて、日本でもこの5月より新型コロナウイルス感染症が2類から5類へと移行し、世界的にもアフターコロナへと向かいつつあります。リアルに人と会う機会が増加しておりますが、オンライン利用が無くなることもなく、しばらくは両者が併用されることになるのだろうと予想しています。また世界の流れに目を向けると、世界中がネットワークでつながれて、DXが各企業や行政でも意識され、ChatGPTに代表されるようなAIの進化が加速度的に起こっています。電子楽器やカラオケ機器、周辺機器に期待されるものや音楽への人々の関わり方にも変化が起きており、新たな音楽の楽しみ方に対応したMIDI規格の進化や知的財産権のあり方等々、AMEIが果たすべき役割も高まってきております。このような環境変化に柔軟に対処できるよう、会員の皆さま方のご協力をいただきながら、それぞれの課題を迅速に解決していきたいと考えています。

私は、これまで開発よりも販売する方を中心に電子楽器や音楽のサービス事業に幅広く関わって参りました。その経験を活かし、開発とはまた違った視点で当協会の活動と発展に貢献し、尽力していく所存ですので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが就任のご挨拶といたします。



山口 静一 新会長

新任幹事のご紹介

成田 賢哉 株式会社鈴木楽器製作所 執行役員 開発部長

AMEI 会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、第12回通常総会におきましてご承認いただき幹事を務めさせていただくことになりましたので、ここに謹んでご挨拶申し上げます。

弊社は、1953年に創業し本年で70周年を迎えました。創業以来、教育楽器を中心とした製品の開発、製造、販売を通じて、子どもたちが楽器のもつ楽しさや演奏の喜びを知ることによって音楽が好きになり、心豊かに成長していけるようお手伝いをする、大人になっても音楽を楽しむ気持ちを持ち続けていただけるようお手伝いすることが、私たちの使命と考え事業を行ってまいりました。

弊社と AMEI との関わりは、1996年の設立当初からと長きにわたりお世話になっております。AMEIでの活動の場は、弊社の製品開発におきましても各分野のスペシャリストが集うそれぞれの部会において弊社のみでは知り得ぬ有益な情報を共有出来る大変貴重な場となっております。

現在の社会に目を向けますと、ウィズコロナからアフターコロナへと転換している最中にて、音楽の分野におきましても各地でコンサートやコンクール、音楽発表会といったイベントが開催されるなど、音楽を存分に楽しめる場が増えてきていると実感出来る様になってきました。

このような世情の中で日々進歩する技術を活用して、音楽をより沢山の方々楽しんでいただける製品をつくりあげていくためには、AMEIの活動が担う役割は非常に大きなものであると感じております。

微力ではございますが、AMEIでの活動を通じて業界の発展と少しでも社会に貢献できる様、協会の一員として尽力する所存でございますので、会員の皆さまのご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



成田 賢哉 新任幹事

製品安全・環境委員会報告

製品安全・環境委員会報告

この度、製品安全・環境委員会の委員長を務めさせていただくこととなりましたローランドの鈴木重治と申します。どうぞよろしくお願いたします。私が製品安全規格部会に参加させていただいたのは平成27年4月から。合わせて同時期に第108委員会（オーディオ・ビデオ、情報及び通信技術機器の安全性に関する国際規格 IEC 62368-1の国内審議委員会）へも AMEI の代表として参加させていただいております。

当専門委員会は遡ること昭和50年代に AMEI の前身団体内で発足され、今に至る長い歴史があります。AMEI の設立は平成8年。その頃の委員会発行冊子（"安全規格対応ガイド"や"表示に関するガイドライン"など）が現在も私の職場では保管されており、それら冊子を開いてみますと当時の委員会メンバーが手分けをして情報収集し、まとめ、共有した努力が伺い知れます。その後、今に至るまでには情報化やグローバル化が急速に進んだことでインターネットでの情報収集、機械翻訳を活用した外国語規制文書の読解などが可能となり、以前に比べると一般的な情報の入手は容易になりました。

しかし、電子機器に対する環境影響への規制はより厳しく、その他法規制においても地政学的な影響も含み、より複雑になっております。将来的には、昨今の AI の進化を鑑みますと、より多くの情報を早く入手できるようになると想像いたしますが、その情報解釈などの取扱いは各部会メンバーの知見がこれからも必要となることでしょう。

当委員会では音楽電子事業の振興のために、さらなる有効な取り組みをして参りたいと思いますので、今後とも皆さまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。



製品安全・環境委員会
委員長：鈴木重治

この度、製品安全・環境委員会の副委員長を務めさせていただくこととなりましたヤマハの片岡茂樹と申します。どうぞよろしくお願いたします。

私は平成24年から環境問題研究部会に参加させて頂いておりますが、当時は製品に関する環境法と言いますと、欧州中心に、電気電子製品への有害物質の含有を禁止 RoHS 指令及び同製品の廃棄時製造者に回収を義務化する WEEE 指令、化学物質を幅広く規制する REACH 規則、製品使用時のエネルギー消費量を規制する EuP 指令（その後、ErP 指令又はエコデザイン指令と改正）等が部会メンバーが直面するメインの法律でしたが、現在は、欧米中等の主要国のみならず様々な国で類似法が発行され、国によっては法改正情報が入手しにくい、又入手したとしても公布から強制日まで余裕のない場合もあり、部会メンバー会社の製品販売のリスクにもなっています。

更には、近年欧州の中でも EU の循環経済パッケージ政策に基づく EU 各国独自の製品リサイクルに関する表示や情報開示要求のように、要求事項が細分化される傾向があり、その課題に対する見直しの傾向はあるものの、各社対応に苦慮しております。

このような複雑な環境下の中、両部会においては迅速に情報を共有、解釈し、各社の対応の助けになることは勿論、今後は不合理な法規制に対しては必要に応じて業界の意見を規制当局等に提出する必要もあるのではないかと考えています。

つきましては、各部会メンバーにおかれましては、積極的なご参加と外部情報の共有へのご協力をお願い致します。



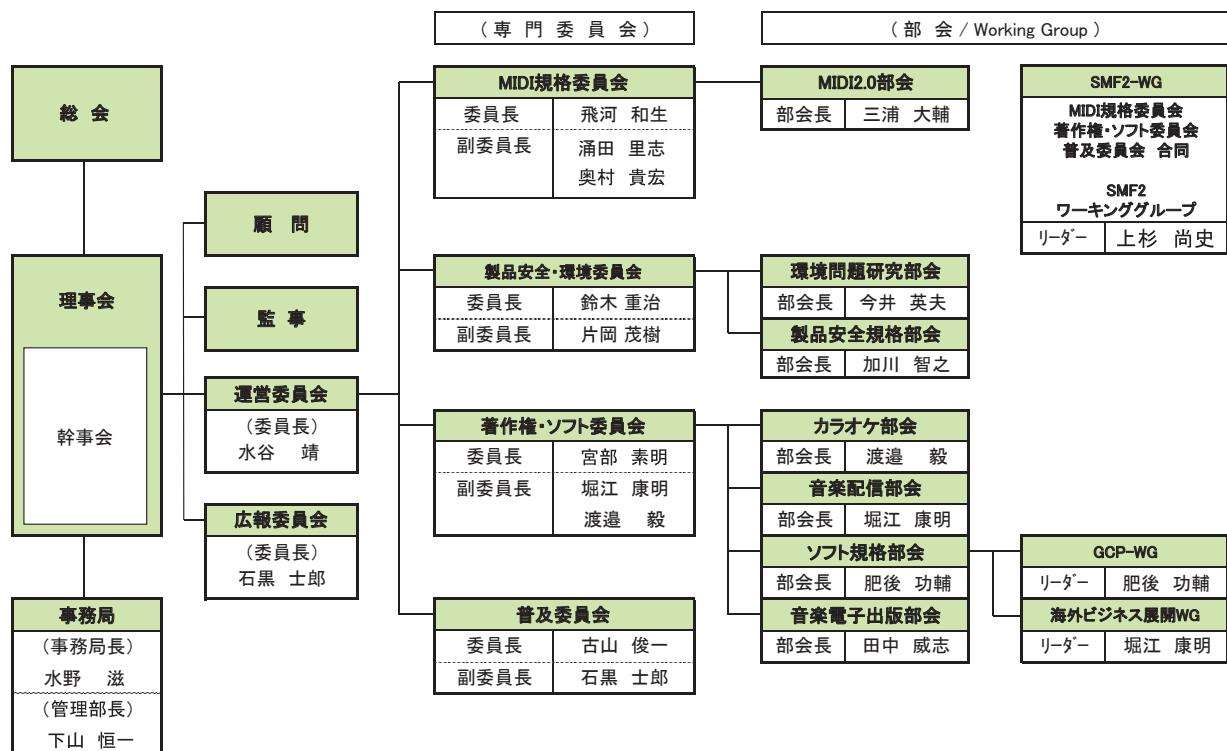
製品安全・環境委員会
副委員長：片岡茂樹

令和5年度 一般社団法人音楽電子事業協会役員名簿

理事会 幹事会役職	氏名	会社名	役職
会 長	山口 静一	ヤマハ株式会社	常務執行役 楽器事業本部長
副 会 長	佐々木 隆一	株式会社ぶらあぼホールディングス	代表取締役
◇	水本 浩一	ローランド株式会社	基幹開発本部長
◇	渡邊 泰人	株式会社第一興商	専務執行役員
専務理事	水野 滋	一般社団法人 音楽電子事業協会	専務理事
常務理事	水谷 靖	株式会社エクシング	代表取締役社長
理 事	伊東 智子	株式会社コルグ	執行役員
◇	中西 正人	株式会社フェイス	専務取締役
◇	林 龍太郎	カシオ計算機株式会社	開発本部 第一開発統轄部第三開発部長
◇	飛河 和生	クリムゾンテクノロジー株式会社	代表取締役
幹 事	白壁 依里	Apple Japan 合同会社	政務部部长
◇	辻 浩己	学校法人 尚美学園	理事 法人本部長
◇	成田 賢哉	株式会社鈴木楽器製作所	執行役員 開発本部長
◇	播磨 洋介	株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス	ミュージックメディア部部长
◇	箕輪 匡文	株式会社河合楽器製作所	常務取締役 執行役員
◇	村上 昇	株式会社インターネット	代表取締役
監 事	三木 康司	株式会社シーミュージック	代表取締役
◇	古山 俊一	尚美学園大学	名誉教授
顧 問	日吉 昭夫		

* 敬称略・50音順（常勤役員は専務理事のみ、他の役員は非常勤です。）

令和5年度 組織図 一般社団法人音楽電子事業協会



* 敬称略順不同

一般社団法人音楽電子事業協会 令和5年度事業計画 委員会活動(案)

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

1 全体

以下各委員会活動は、定款(事業)第4条の各項に準ずるものとする。

2 製品安全・環境委員会

活動方針

製品安全規格・環境問題研究両部会での情報交換と、各法規制からの要求事項に対する解釈のレベル合わせのための活動を継続し、電子電気楽器及び関連機器製品の安全性確保と環境問題への対応推進を図る。

事業計画

「製品安全規格部会」：4月20日、7月20日、10月19日、1月18日

原則第3木曜日開催を予定。

「環境問題研究部会」：4月11日、7月11日、10月10日、1月9日

原則第2火曜日開催を予定。

本年度より両部会はオンライン開催へ移行する。

活動テーマ

「製品安全規格部会」

- (1) 安全規格の動向調査
 - ・電気用品安全法省令、解釈及び規格
 - ・国際規格(IEC)
 - ・北米規格(UL, CSA)
 - ・欧州規格(EN)
 - ・中国、韓国、台湾、ユーラシア関税同盟(EAC)、その他各国
- (2) EMC規制に動向調査
 - ・国際規格(CISPR)
 - ・北米規格(FCC, ICES)
 - ・欧州規格(EN)
 - ・中国規格、韓国規格、その他
- (3) その他の動向
 - ・各国の省エネルギー制度
 - ・各国の電波法・無線規制
 - ・PL関連情報

参加団体

- ・JEITA マルチメディア EMC 専門委員会
 - ・JBMA 第108委員会
 - ・電気用品調査委員会の電波雑音部会
 - ・電気製品認証協議会
- ※電安法への要望窓口となる参加団体については引き続き調査をする。

「環境問題研究部会」

- (1) 化学物質規制・管理法関連の動向調査及び情報交換
 - ・EU RoHS, EU REACH
 - ・CN RoHS, UAE RoHS, EAEU RoHS
 - ・US TSCA, Proposition65
 - ・各国化学物質管理・規制法
- (2) 省エネルギー法・規制の動向調査及び情報交換
 - ・EU エコデザイン規則

・各国待機電力規制

(3) 廃棄物・リサイクル法関連の動向

・WEEE・各国容器包装法

(4) その他の動向

・違法伐採・木材管理法関連(CITES含む)

・難燃剤規制の動向(EEEへの波及)

・サプライチェーンにおける情報伝達(chemSHERPAなど)

3 MIDI規格委員会

活動方針

○音楽や電子楽器に関する技術検討、規格審議を行い、将来の音楽事業発展に貢献する

活動計画

- MIDI規格委員会開催：メーリングリストでの審議を基本とし、必要に応じてオンラインにて開催予定。
- MIDI2.0部会の開催、ピアノプロファイルWGの開催：
 - ・月次開催。コロナウイルスの状況によりオンライン、オンライン開催を検討。
 - ・状況により、適宜、臨時部会を開催
 - ・イベント共催および参加：鋭意検討

事業計画

- ・MIDI2.0市場発展をめざした標準化活動
- ・SMF2 WGとの連携標準化活動
- ・MIDI2.0部会：
 - ・MIDI 2.0 デバイスのプロトタイプ開発
 - ・USB MIDI 2.0 Host Driver for Windowsの開発
 - ・MIDI 2.0 implementation chart 制定
 - ・規格準拠テスト方法の検討
 - ・MIDI 2.0 規格書日本語訳
 - ・MIDI 2.0 のプロモーション
- ・SMF2 WG：
 - ・MIDI Clip File の運用ルールについて検討
 - ・MIDI Container File 仕様の審議
 - ・メタイベント系 UMP 仕様の検証

4 著作権・ソフト委員会

活動方針

1. 会員各社の事業運営における著作権に係る問題点等を解決すべく、関係団体と協力し権利者との協議や文化庁に対する要望申し入れ等を活発に行う。また、著作権法の改正を含む様々な環境変化の中で生じる不具合については、積極的に関係省庁、権利者、管理事業者等に問題提起を行う。
2. 定例会を通じ各部会それぞれが取り組んでいる課題と成果をタイムリーに情報共有しつつ、委員各位の意見を吸収し部会活動に反映させることにより、会員個々の事業の活性化と市場の発展に貢献する。

活動計画

委員会定例会10回(8月、1月を除く毎月第二木曜日)、音楽配信部会15回程度(管理事業者との協議や関連団体

との意見交換含む)、
ソフト規格部会 10 回程度、
カラオケ部会 8 回程度、
音楽電子出版部会 8 回程度

事業計画

【音楽配信部会】

1. 音楽配信に関わる問題点の情報交換・意見交換を著作権・ソフト委員会定例会の場にて実施すると共に、NMRC を通じ管理事業者との協議・関連団体との意見交換に反映させる。
2. NMRC 実務 WG を通じて、実務上の問題点解決にむけ、管理事業者、関連団体との意見交換を実施する。
3. 音楽配信部会での情報共有、意見の集約を積極的に行う。
4. スマートフォン関連コンテンツのビジネスや著作権についての意見交換を積極的に行う。
5. 関連部会や委員会との情報交換を密にし、部会での情報共有を行う

【ソフト規格部会】

1. MIDI 及び音楽関連ソフトウェア事業に関する情報交換、勉強会の実施。インターネットを始めとした新しいメディアにおける音楽電子事業の研究
 - ・著作権重要判決、紛争例の研究
 - ・クラウドと音楽ビジネス、AI の動向と楽器への影響に関する研究
 - ・音楽教室に関する JASRAC 使用料問題の動向について情報共有
 - ・改正著作権法に関する研究
 - ・文化審議会著作権分科会の審議動向に関する研究
 - ・適正な音楽利用に関する研究（楽曲の権利判定、JASRAC 使用料規程など）
2. ワーキンググループによる諸問題の討議、検討、規格化と実践
 - ・楽器内蔵コンテンツ等の保護に関する検討 WG (GCP-WG) の開催
 - ・海外ビジネス展開 WG の開催
3. その他、規格に関する問題、課題等の検討（随時）

【カラオケ部会】

1. 一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）との使用料規程第 10 節「業務用通信カラオケ」に関する継続協議
 - ・他の管理事業者が管理する楽曲の利用割合の反映に関する実務運用
 - ・非管理楽曲が使用されている実態を勘案した利用割合に関する協議
 - ・その他、使用料規程の取扱いに関する協議
2. 株式会社 NexTone との使用料規程に関する継続協議
3. 各著作権等管理事業者との第三者機関を活用した実務運用の検討
4. その他カラオケ事業にかかる案件

【音楽電子出版部会】

1. 電子楽譜サービスおよび電子歌詞サービスに関わる問題点を音楽電子出版部会内で情報交換・意見交換し、またこれらサービスに対して課される著作権使用料のあるべき姿を議論の上、権利者、使用者がともに十分に納得しうる使用料率案の策定につなげる
2. 音楽電子出版部会での情報共有、意見の集約を積極的に行う
3. 関連部会や委員会との情報交換を密にし、部会での情報共有を行う

【その他】

1. 早稲田大学創造理工学部連携講座の実施（秋季を予定）

5 普及委員会

活動方針

MIDI 規格の正しい理解と普及を目的として、教育（MIDI 検定の実施継続）・普及（MIDI 規格委員会・会員各社との連携によるイベント等の実施）について、各委員会と連携し、計画・提案を行う。

事業計画

MIDI 検定事業

「委員会開催予定」

4 月開催：2023 年度活動スケジュール・内容の確認と対策

7 月開催：「ミュージッククリエイターハンドブック」改訂に伴う、指導者講習会の実施

「2023 年度 MIDI 検定試験」 オンライン試験

「第 15 回 MIDI 検定 1 級試験」 2023 年 8 月実施

「第 26 回 MIDI 検定 3 級試験」 2023 年 12 月実施

「第 25 回 MIDI 検定 2 級 1 次（筆記）試験」

2023 年 12 月実施

「第 25 回 MIDI 検定 2 級 2 次試験」 2024 年 2 月実施

「2023 年度指導者認定講座」 オンライン講座

「MIDI 検定 4 級指導者認定講座」 2023 年 6 月に開催

「MIDI 検定 3 級指導者認定講座」 2023 年 7 月に開催

「MIDI 検定 2 級指導者認定講座」 2023 年 9 月に開催

イベント事業

MIDI 規格委員会・広報委員会等と連携して、MIDI の普及イベントの計画

- ・立案を行う。

6 広報委員会

活動方針

外部に対する情報発信機能を充実し、当協会の存在意義を広くアピールすると共に、会員に対する情報提供機能の充実により会員の連帯感を強め、当協会の積極的な活動を側面からサポートする。

活動計画

- ・会報「AMEI News」編集会議 3 回
- ・セキュリティ強化対策の検討会議 1 回
- ・サステナビリティ強化対策の検討会議 1 回

事業計画

1. 会報『AMEI News』の発行（事務局との連携により推進）
 - ・年 3 回（発行予定）ホームページへの PDF ファイルの掲載
2. ホームページの充実（事務局との連携により推進）
3. セキュリティ、サステナビリティ強化対策の検討の実施（事務局との連携により推進）
 - ・個人情報保護対策の強化検討
 - ・クラウドサービスの可能性検討

ミュージッククリエイターハンドブック改定について

MIDI 検定指導研究委員会 上杉 尚史

1999年1月に第一回MIDI検定3級試験を実施してから、早いもので25年が経とうとしております。当初は純粋にMIDIのデータ内容とDAWにおけるイベントリストの表記が理解できれば良いという内容だったのですが、時代と共に音楽制作を取り巻く環境が変わっていき、MIDI検定においても必要な情報を積極的に取り入れていくという方向になっていきました。そこで、mp3をはじめとするデジタルオーディオの知識、音楽著作権に関する知識、シンセサイザーの音作りに関する知識など様々な内容を盛り込み、2012年に「ミュージッククリエイターハンドブック」を発刊いたしました。

ミュージッククリエイターハンドブックは、それまで別々に発行されていたMIDI検定3級、2級の内容を一つにまとめたほか、2009年から実施されている1級の内容にも触れ、1～3級すべての公式ガイドブックとして10年以上活用されてきました。MIDI1.0規格の内容を中心に編纂されておりますので、基本的な部分では現在でも活用できる書籍なのですが、この10年でUSBは3.0がリリースされたりコネクタもTYPE-Cが普及したりするなどMIDIを取り巻く環境が少しずつ変化してきたため内容の刷新を要望されることも多くなりました。

さらに、Bluetooth、Danteといった通信方法も10年前とは異なり一般的に使用されることが多くなりましたので、これらの名称や仕様、さらにはケーブル、コネクタなどの知識もある程度おさえておく必要も出てきています。

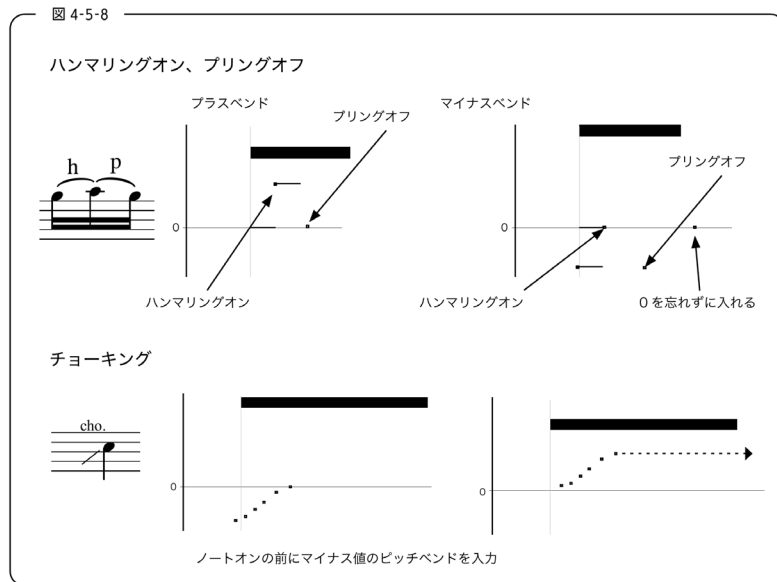
また、MIDI検定試験自体も、コロナ禍でオンライン化されたことや、前述の機材の進化に伴い設問として使用できなくなった内容の刷新など、様々な改定を行う必要性が生じたことから2012年版の「ミュージッククリエイターハンドブック」を全面的に刷新し、「ミュージッククリエイターハンドブック【2023年改訂版】」としてリリースすることと致しました。

今回改定した「ミュージッククリエイターハンドブック【2023年改訂版】」の改定ポイントは下記になります。

1. 2012年版ではCDリリースを中心にしてきた音楽再生、録音等の歴史や概要に関しては、できる限り最新の状況（配信型リリースやサブスクなど）を踏まえて記述
2. 多様化するDAWのイベントリスト表記について解説
3. 様々なシンセサイザーの音源方式の解説
4. DAWを使用した実際の制作に役立つ解説を充実
5. ケーブルやコネクタ、デジタル伝送規格などについては最新のものを網羅

MIDI 1.0の内容について大きな変化は無いのですが、禁止用語の関係で規格書から削除された言葉については本ガイドブックでも修正をしました。また、前回のガイドブックでは記載の無かったGML2の音色マップおよびドラムマップの記載を行ったことや、改めてGML1とGML2の解釈を整理し、仕様の詳細を理解しやすいようにまとめています。

DAWでのMIDIによる打ち込み手法については、現在MIDI検定2級2次試験で推奨している打ち込み手法を基本に、データの作り方に関する記載を譜例と図解で解説しており、より具体的な入力方法を理解してもらえるように編集しました。また、代表的な楽器の音域表やコード、スケール、記譜法に関する楽典的な資料も充実させており、音楽制作時に悩んだときでも、この一冊が手元があればある程度のことは解決できるように致しました。



なお、MIDI2.0に関する情報は、限定的な内容（UMPの基礎部分程度）となっています。但し、今後仕様書を読みこんでいくための知識を身につける意味で16進数のバイト表記をこれまでの7FHの様な8ビット単位の表記知識に加え、0xFFFFの様な表記方法まで拡張して解説を入れました。

MIDI検定を通じて、単に音楽制作を行うクリエイターを育てるだけでなく、アプリケーション開発者やWEB系のエンジニアを目指す方にも、MIDIを活用していただける様な内容を目指しており、より多くの方にこの本を手にとっていただければと考えております。



目次	
はじめに	2
CHAPTER 1 音と音の記録—音楽制作の進化	8
1 音の作り方	8
2 音の発生	10
3 音の伝播	14
4 和音 (コード) について	18
5 音の伝達と再生	24
6 録音機材の進化	28
CHAPTER 2 音楽制作にまつわる機材の知識	36
1 コンピューターに関する知識	36
2 オペレーティングシステムの知識	40
3 その他の音楽に関する知識	44
4 周辺機材の知識 (1) 録音機材に関する知識	46
5 周辺機材の知識 (2)	48
6 DAWについて	54
7 アナログシンセサイザーの知識	58
8 その他のソフトウェア	62
9 アナログシンセサイザーの知識	66
10 デジタルシンセサイザーの知識	70
11 テーブル、コンタクトの知識	72
CHAPTER 3 MIDIについて	78
1 MIDI 1.0の基礎 (1)	78
2 MIDI 1.0の基礎 (2)	84
3 MIDI 1.0の基礎 (3)	98
4 MIDI 1.0の基礎 (4)	108
5 MIDI 1.0の基礎 (5)	118
6 MIDI 2.0の概要	122
7 MIDI 2.0の概要	124
CHAPTER 4 MIDIと音楽表現	128
1 DAWにおけるイベントリストの表記	128
2 ピアノロール表記	132
3 楽譜表記	136
4 ドラム・パーカッションの演奏データ	142
5 代表的な楽器表現	144
6 セットアップデータの重要性と作り方	156
CHAPTER 5 デジタルオーディオの知識	160
1 デジタルオーディオの基礎知識	160
2 代表的なオーディオファイル	164
3 高解像度の知識	168
CHAPTER 6 電子楽器の知識	176
1 アナログシンセサイザー	176
2 サンプラーとPCMシンセサイザー	182
3 その他のシンセサイザー	186
CHAPTER 7 DAWによる音楽制作手法	192
1 ドラッグの機能	192
2 MIDIの編集	196
3 MIDIの編集	200
4 オーディオ録音	206
5 オープンエディタ	210
6 ミキシング	214
7 MIDIの書き出しとオーディオの書き出し	224
8 DAWの活用方法	226
CHAPTER 8 音楽の活用	230
1 さまざまなリリース方法	230
2 著作権の知識	234
CHAPTER 9 MIDI検定について	242
1 MIDI検定について	242
2 3級検定試験	244
3 2級2次試験	248
4 1級試験	252
資料	256
インプレジメンテーションチャート	256
GM2のハードウェア	257
GM2のバージョンアップ	262
演奏例	264
索引	266
参考文献	271

お見舞い
一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆さまのご健康を
心よりお祈り申し上げます。

会員名簿

50音順 2023年5月1日現在

<p>あ</p> <ul style="list-style-type: none"> AlphaTheta 株式会社 Apple Japan 合同会社 アナログ・デバイス株式会社 	<p>し</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社シーミュージック 学校法人尚美学園 株式会社シンクパワー 	<p>ふ</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社フェイス 株式会社ぶらあぼホールディングス
<p>い</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社インターネット 	<p>す</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社ズーム 株式会社鈴木楽器製作所 株式会社スリック 	<p>や</p> <ul style="list-style-type: none"> ヤマハ株式会社 株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス
<p>え</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社エクシング 	<p>た</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社第一興商 	<p>ろ</p> <ul style="list-style-type: none"> ローランド株式会社
<p>か</p> <ul style="list-style-type: none"> カシオ計算機株式会社 株式会社河合楽器製作所 	<p>て</p> <ul style="list-style-type: none"> ティアック株式会社 	<p>を</p> <ul style="list-style-type: none"> 中音公司 (中華人民共和国) 株式会社博秀工芸 株式会社ミュージックトレード社 株式会社リットーミュージック
<p>く</p> <ul style="list-style-type: none"> クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 クリムソンテクノロジー株式会社 	<p>な</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社 nana music 	<p>を</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社ミュージックトレード社 株式会社リットーミュージック
<p>こ</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社コルグ 	<p>は</p> <ul style="list-style-type: none"> パイオニア株式会社 	<p>を</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社ミュージックトレード社 株式会社リットーミュージック



令和5年度
「MIDI検定」
●ミュージッククリエイターのための認定制度



受験案内

団体試験 令和5年12月3日(日) 団体会場
3級試験 PM1:30~PM2:30
2級1次試験PM3:00~PM4:30

一般試験 令和5年12月3日(日) オンライン試験
3級試験 PM1:00~PM2:00
2級1次試験PM4:00~PM5:30

第26回 MIDI検定3級試験
第25回 MIDI検定2級1次試験

期間 2023・9/4(月) ~ 10/30(月)



2023
System Exclusive ID
会員募集

一般社団法人音楽電子事業協会(AMEI) システム・エクスクルーシブID会員 募集中。法人、個人を問わず楽器やMIDIアプリ、自作MIDI機器等を開発しようとする皆様に、会員規程のもと、System Exclusive Manufacture's ID Numberを発行致します。

AMEI NEWS Vol.80 / 2023.9.11
一般社団法人音楽電子事業協会 機関誌
発行：一般社団法人音楽電子事業協会 事務局
〒101-0061
東京都千代田区神田三崎町 2-16-9 イトービル 4F
TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549
発行人：水野 滋
編集人：石黒士郎 (広報委員会)
編集協力：株式会社 博秀工芸
ホームページアドレス：
<http://www.amei.or.jp/>

